

ロック・ビート

ロック・ビートの特徴

「ロック・ビート」は、「8ビート」や「16ビート」が土台となり、これまでに学んだリズムパターンはほぼそのまま使えると思ってもらって大丈夫です。

その上で、よりロックらしいテイストに仕上げるために以下の点に留意すると良いでしょう。

- 基本は「表ノリ」
- パワフルでどっしりした音色
- プッシュ気味の演奏

基本は「表ノリ」

ロック全般では、原則として、
オモテ拍にアクセントを置いた「表ノリ」で演奏します。

ロックアーティストのライブでは、
頭を前後に激しく振る「ヘッドバンギング」をしたりしますが、
あれこそまさに「表ノリ」を象徴する動作ですね。

拍頭をしっかりと感じながら、疾走感のあるビートを意識しましょう。

パワフルでどっしりした音色

基本ビートとロックビートでのもっとも大きな違いは、リズムパターンよりもその音色にあるといっても過言ではありません。

ロックらしい、パワフルで荒々しい音色選びも、ロック・ビートらしさを表現する大事な要素。

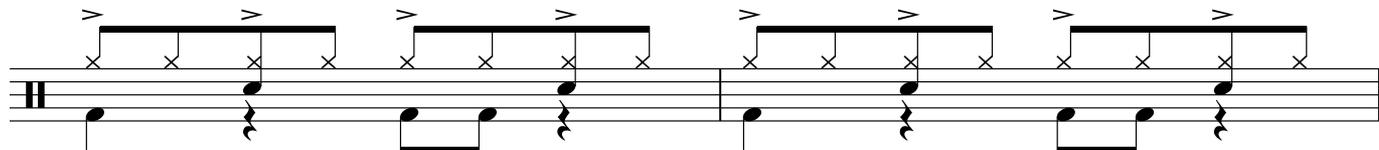
演奏においても、オープンハイハットやクラッシュシンバルによる派手な音色を多用したり、キックやバスドラムの手数を多くしてどっしりしたビートを刻むとそれらしくなります。

プッシュ気味の演奏

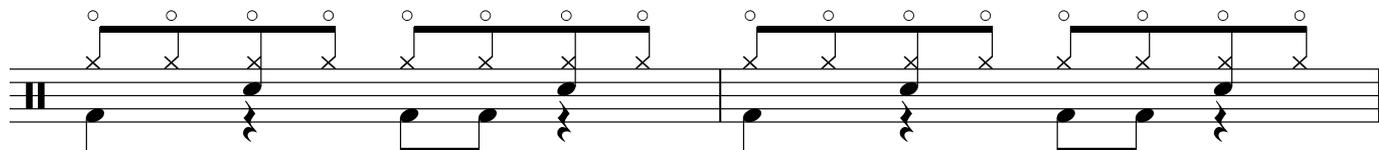
「表ノリ」に加えて、ドラム全体や特定のノートをプッシュ気味に演奏することで疾走感のある演奏が実現できます。

ロック・8ビート

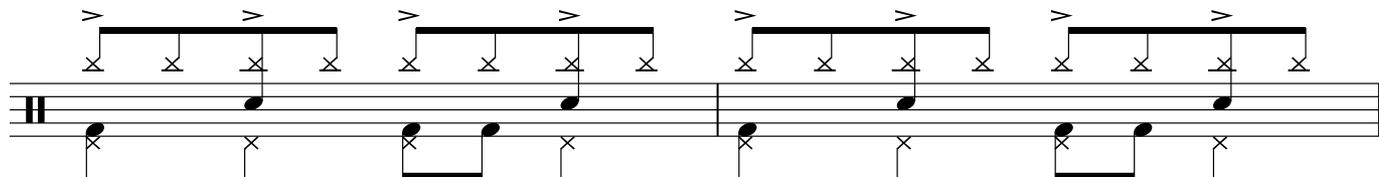
パターン①



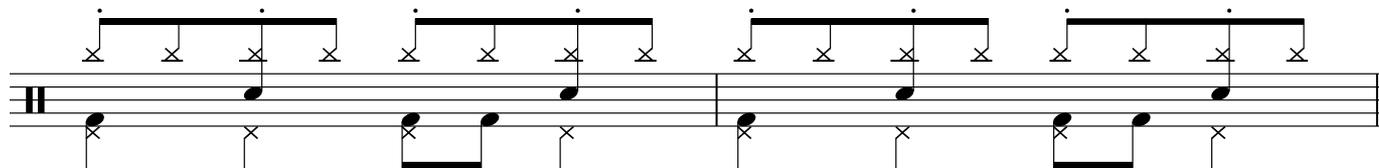
パターン②



パターン③

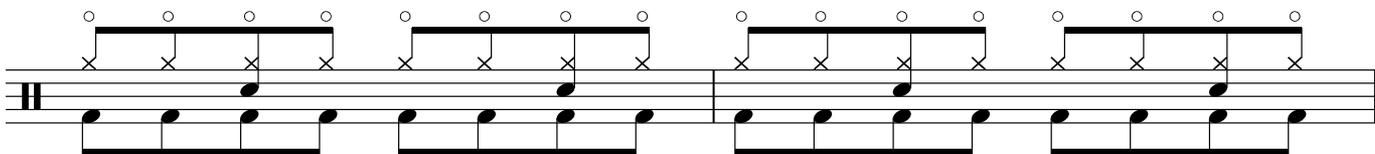


パターン④

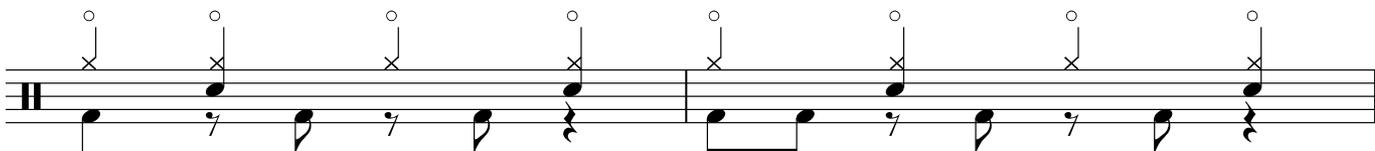


ロック・8ビート

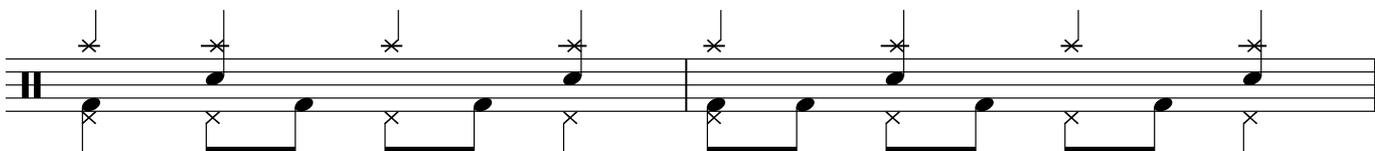
パターン⑤



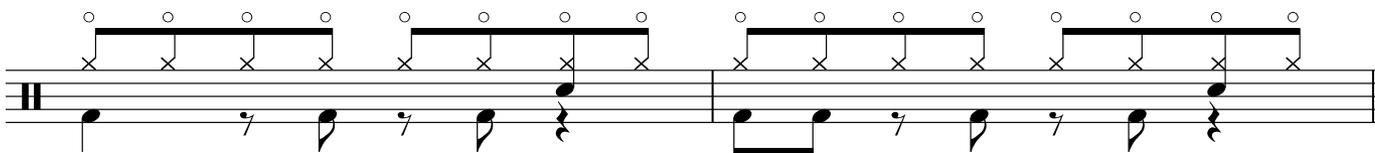
パターン⑥



パターン⑦

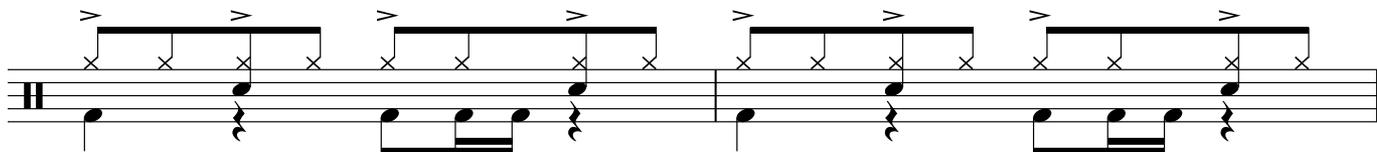


パターン⑧

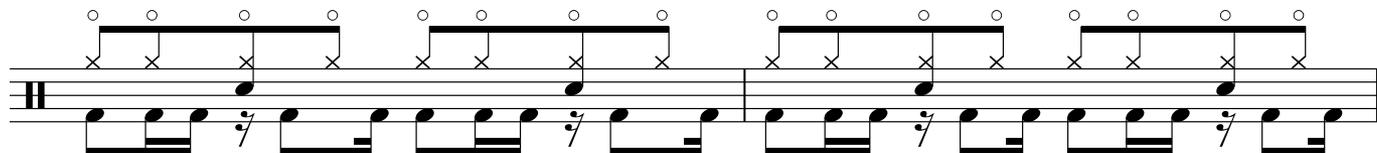


ロック・16ビート

パターン①



パターン②



パターン③



パターン④



ロック・ビートの音色選び

打込む際には、ロック・ビートの特徴のひとつである「パワフルでどっしりとした音色」を意識してプリセットを選ぶと良いでしょう。

具体的には、以下の点を意識すると良いでしょう。

- 比較的低めのピッチ(音程)
- はっきりしたアタック(打音)
- 派手なシンバル

ロック・ビート打込みのコツ

■ ロック・ビートのベロシティ

ロックのパワフルなサウンド感を強調する上でも、比較的強めのベロシティで打ち込むと良いでしょう。また、「表ノリ」を表現する上で、アタマ拍へのアクセントは欠かせません。

■ ロック・ビートのクオンタイズ

ロック・ビートにおいては「プッシュ感」が重要です。どの程度プッシュさせるかは楽曲によってそれぞれですが「シンコペーション部分」「4拍目のスネア」など意識してプッシュしてあげると、より疾走感のある演奏になります。